

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3144889号
(U3144889)

(45) 発行日 平成20年9月18日 (2008.9.18)

(24) 登録日 平成20年8月27日 (2008.8.27)

(51) Int.Cl. F 1
E O 4 F 15/08 (2006.01) E O 4 F 15/08 A
E O 4 F 13/14 (2006.01) E O 4 F 13/14 1 O 2 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2008-4588 (U2008-4588)
 (22) 出願日 平成20年7月4日 (2008.7.4)

(73) 実用新案権者 598107219
 日化ボード株式会社
 福島県双葉郡浪江町大字北幾世橋字北原 1
 6
 (74) 代理人 230101177
 弁護士 木下 洋平
 (72) 考案者 朝田 英信
 福島県双葉郡浪江町大字北幾世橋字北原 1
 6 日化ボード株式会社内

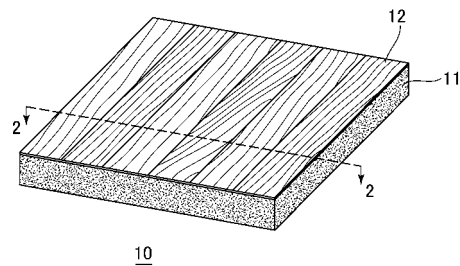
(54) 【考案の名称】 天然木突板付木質セメント板

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 上から壁紙を貼付ける等の処理を要することなく、そのまま内装用建材としても使用することができる木質セメント板を提供する。

【解決手段】 木質成分とセメント成分からなる木質セメント板 11 の表面に、天然木の突板 12 が接着されている、天然木突板付木質セメント板 10 である。これにより、簡易な方法且つ低コストで、そのまま内装用建材として使用することができる、装飾性を合わせ持った木質セメント板を提供することができ、内装に要する作業時間も短縮することができる。また、低コストで天然木の木目を有する壁板を得ることが可能となる。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

木質成分とセメント成分からなる木質セメント板の表面に、天然木の突板が接着されていることを特徴とする、

天然木突板付木質セメント板。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、建築用資材である木質セメント板に関する。

【背景技術】

10

【0002】

木質セメント板は、木毛を原料とする木毛セメント板と木片を原料とする木片セメント板との総称であり、いずれも、木毛又は木片に、セメント、水及び硬化剤を加え、加圧成形して作られる複合材である。木質材料とセメントを複合することによって、木材の建築用材としての欠点が改良され、また、同体積のセメント板よりも軽量となる特徴がある。特に、廃材を利用することができる利点があり、且つ、準不燃材料としての性能を有し、遮音性、吸音性、断熱性に優れているという特性を有する。このため、住宅の床、壁、屋根下地等の材料として活用されている。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】**

20

【0003】

しかし、木材の細片をセメントで固めて作られるこのような木質セメント板は、そのままでは建築物の美観を損なうため、人目に触れない建築用資材としてのみ利用され、人目に触れる内装部分においては、美観を付与するため、表面に壁紙を貼付ける等の処理を改めて行う必要があるため、手間と費用がかさむという理由で、内装部分には、殆ど、使用されていないのが現実である。

そこで、本考案は、内装用の建築用資材としても利用可能な、装飾性を合わせ持った、木質セメント板を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

30

本考案は、木質成分とセメント成分からなる木質セメント板の表面に、天然木の突板が接着されていることを特徴とする天然木突板付木質セメント板によって、前記課題を解決した。

【考案の効果】**【0005】**

本考案の天然木突板付木質セメント板は、表面に天然木の突板が接着されているため、そのまま内装用建材として使用することができる。従って、簡便、且つ、低コストで、天然木の木目を有する壁板を得ることができ、その結果、建築の内装に要する作業時間を短縮し、建築コストの削減に資するという効果を奏する。

【考案を実施するための最良の形態】

40

【0006】

以下、図 1, 2 を参照して、本考案の実施形態について説明する。

図 1 は、本考案の天然木突板付木質セメント板の斜視図、図 2 は、その断面図である。

【0007】

本考案の天然木突板付木質セメント板は、以下のようにして製造される。

木質セメント板そのものは周知であるから、その製造方法についての説明は省略する。

まず、木質セメント板をサンダー（研磨機）にかける。本考案においては、木質セメント板として、普通木毛セメント板より密度及び強度が高い、硬質木毛セメント板を用いるのが好適である。

【0008】

50

サンダーにより研磨した後、木毛セメント板の全面に、水性ビニール系のボンドをむら無く塗布し、その上に、突板を貼付ける。

通常、木毛セメント板の片側にのみ突板を接着するが、用途によっては、両側に接着してもよい。

【0009】

なお、「突板」とは、一般に、高級木材の原木を薄くスライスした単板のことである。主に、原木を平らにスライスするスライサーを用いる方法と、原木を回転させながら「かつら剥き」のようにスライスするロータリーレースを用いる手法とがあり、スライス方法によって木目の出方が異なる。このような手法を活用することにより、希少性を有する、美しい木目を持つ高級木材を有効に活用することができ、且つ、無垢の高級材を用いるよりも遥かに低コストで、高級感のある仕上がりを実現することができる。

10

【0010】

実施形態においては、主に杉材の、約2cm厚のひき板を、木目方向に平行に並べて集成接着した集成材を用いる(図3参照)。この集成材の接着面及び木目方向に直交するように刃を入れ(図3の矢視線)、平らに薄くスライスすると、約2cm間隔で、微妙に異なる木目がほぼ平行に走る突板を得ることができる。本考案の場合、スライスする際の厚みは、0.3~0.5mmであることが望ましい。これよりも薄くても厚くても、木質セメント板の表面への、一様な接着が難しくなる。

【0011】

突板を接着した木毛セメント板を、一定枚数重ねてプレスし、養生させる。

20

所定の時間経過後、プレスを外し、サイズを統一し、突板の表面処理を行うことにより、本考案の天然木突板付木質セメント板が完成する。突板の表面処理としては、使用目的により、合成樹脂塗料や天然ウッドオイル等を塗布する。

【0012】

以上のように、本考案の天然木突板付木質セメント板によれば、簡易な方法、且つ、低コストで、そのまま内装用建材として使用することができる、装飾性のある木質セメント板を提供することができる。また、低コストで、天然木の木目を有する美しい壁板を得ることが可能となり、建築の内装に要する作業時間も短縮することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

30

【図1】は、本考案の天然木突板付木質セメント板の一実施形態の斜視図。

【図2】は、図1の2-2線での断面図。

【図3】は、本考案の天然木突板付木質セメント板の一実施形態に用いる突板の製造方法を示す図。

【符号の説明】

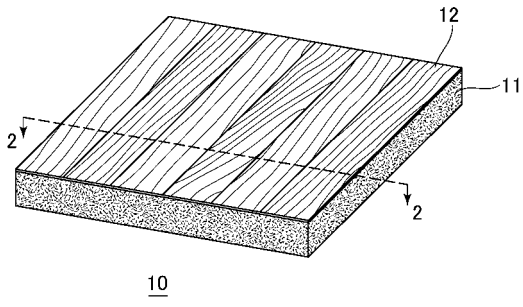
【0014】

10：天然木突板付木質セメント板

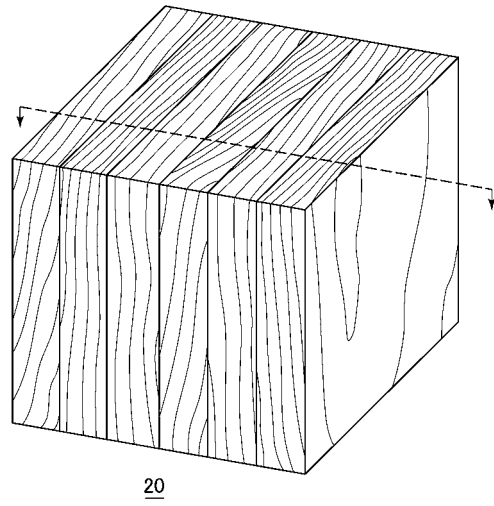
11：木質セメント板

12：突板

【 図 1 】



【 図 3 】



【 図 2 】

